

がんばるといふこと

弘前市立第三大成小学校

建部 佑斗

「ひとに勝つことが、がんばるっていうことだったら、始
お母さんはあなたに、がんばってほしくなんかないのよ。」
この言葉にぼくはおどろきました。それは、がんばるとい
うのは大きなことで、よいことだと思っていたからです。

ぼくは、サッカーをやっています。でも、なかなか上手に
できません。リフティングの回数は他の子より少ないし、シ
ュートも、他の子は高く飛ぶのに、ぼくのはころころボール
です。他の子と同じようになりたいし、できれば他の子より
も上手になりたいと思っていました。お父さんやお母さんか
らも、がんばりなさいとよく言われます。他の子に追いつく
ように、そして追いこすようにがんばらないといけないと思
っていました。だから、「がんばってほしくなんかないのよ」
という言葉にびっくりしてしまいました。

その始のお母さんも、一組がリレーで大逆転勝利をした時
は、喜びました。それは、みんなが本気でがんばったからで
す。きつと始のクラスのみんなは、負けないようにという気

持ちでがんばったのではなく、こんななんことに對してただ
力をふりしぼって立ち向かっていっただけだと思います。だ
から、お母さんを感じさせたのだと思います。

ぼくは今まで、人より試合に出られないのがっかりしたり、
人より上手になりたいと思ったり、人と比べてばかりでした。
でも大きなことは、人と比べるのではなくて、自分にとつて
むずかしいことに對してもせいっぱい努力して乗りこえる
ことだと気が付きました。

ぼくは夏休み中、本気の努力をしてみようと思いました。
まず、練習の前に進んで道具のじゅんびをするようにしまし
ました。練習がない日は、近くの公園に行つて、お父さんと
お兄ちゃんといっしょにシュートやパスやドリブルの練習を
しました。苦手なリフティングやドリブルが前より少しでき
るようになってきたと思いました。

八月十一、十二日、岩手で試合がありました。二日目、と

中から試合に出ました。味方のチャンスボールになりました。相手のゴール近くまでせめ上がり、味方がシュートを打ちました。ボールはキーパーにはじかれて、転がったので、そのボールを直せつけてシュートを打ちました。するとボールは、ゴールの左側に入りました。仲間からナイスと言われしました。ボールをうまくコントロールしてできたことがうれし

かったです。それからチームの役に立てたことが、もっとうれしかったです。

今までのぼくは、自分と人を比べてばかりでした。これからは、人に勝とうと思つてサッカーや勉強をがんばるのではなく、自分にとつて難しいことや大変なことにも立ち向かい、本気の努力をしていきたいと思ひます。